

「お言葉どおりこの身に成りますように」

ルカによる福音書 1章 34～38節

女子聖学院中学校・高等学校保健体育科教諭 田中 優子

今日は後期中間テストを目の前にして皆さんの頭の中は試験のことでいっぱいではないか、と察しています。しかし、この時は神様の声に耳を傾ける時を与えられていますので、どうぞ顔をあげてお話を聞いてください。また私がご一緒できる最後の礼拝となりますから、心を傾けてくださることを願っています。

皆さんは、今まで生きてきた中で「なぜ私がこんな思いをしなくてはならないの?」と想ったり、自分の運命に絶望したりした経験はありましたか?それが愛する人の死であったり、自分の病気や怪我であったり、試験に失敗したり…いろいろとありますね。もしかしたら一生に関わることや、例えどんな些細なことでもそのような経験が在ったかも知れません。私は皆さんより三倍以上も長く生きてきましたから、もちろんそのような経験もしてきました。先ほど言いました出来事があった時に、泣き叫んだり、誰かにつらく当たったりしたことを思い出します。しかしある時気づかされたことがありました。

そのある時とは、母の「癌宣告」でした。私にとって母は心の強い、凛とした憧れの人でした。その母がもう20年前になりますが高熱を出し、病院で検査をしたところ癌が判明しました。その宣告を受ける際に、母は主治医の先生に「娘だけに聞かせることはしないでください。娘にだけつらい思いはさせたくありません。私も一緒に聞きます。そうでなければ一生先生を恨みます。」と言ったそうです。淡々とお話をされ癌を宣告する先生は、最後に余命5年を告げられました。

一回治療が終わったころでしょうか、病室にいる母がぼつんと言った言葉を私は忘れることができません。それは、「どうして病室の窓は少ししか開かないのか分ったわ。もし全開したら私は先生からお聞きした夜に飛び降りてしまっていたかも知れないわ。」そして「なんで私は癌になんかなってしまったのかしら。何にも悪いことなんかしていないのに。」といったのです。今まで気丈な母からは聞いたことのない言葉でした。しかし、ぼつんと言った言葉は後にも先にも一回きりで、その後亡くなるまでこの言葉は聞くことがありませんでした。

さて、今朝の聖書の箇所は処女であるマリアが受胎告知をされたところです。

マリアは「この身になりますように」と告知をされた時にこたえました。処女マリアにとって現代風に言えば「なんで私が子どもを宿さなければならないの?」と憤ってもいいところではないでしょうか。この「この身になりますように」ということばに当時の母のことば

が重なりました。そしてこの箇所から学ぶところは『どうにもならないことであっても、主のみ言葉を受け入れるごとく受け入れる』ことではないかと思います。

母が亡くなってその年のアドベントを迎えた頃にこの箇所が私に語りかけました。その時に、自分ではどうすることもできない事が起きた時も、それが神様のみ旨であるならばそれさえも受け入れようということです。

しかし私は足りない者ですから、未だにオロオロしたり落ち込んだりすることが多くあり、その度にこの箇所から学ぶのです。

もう悲しい出来事はないのではないか、と思ったところ、5年前に最愛のダーリンが、そして今年7月に兄が天に召されました。ダーリンは息を引き取るまで、いつもニコちゃんでいろ！と泣く私を叱咤しましたし、兄の場合は心構えができないほどの短い闘病期間でしたが、最後に話す機会があった時に「辛かったり苦しかった時は大きく深呼吸して上を向くんだよ！」と言われました。

まわりの愛する人たちは、自分が苦しい、辛いのに私のことを思い言葉をくれました。

兄が天国に旅立ってまだ日が浅いので今でも連絡してしまいそうな時がありますが、どこかに向かうときは兄の言葉を思い出して深呼吸をするようにしています。

皆さんが送られるこれからの生活では、最初に言ったように自分ではどうしようもないこと、悲しいこと、辛いことが起こるかもしれません。そんな時、ぜひこのマリアの言葉を思い出してほしいと思います。なるようになるさ！という投げやりな考えではなく、神頼みではなく、事実を謙虚に受け止め、受け入れる心をもって過ごしてほしいと思います。

私も祈りつつ生活していきたいと思っています。

お祈りします。

天の父なる神様。中間試験を目の前にしている今日、健康を支えられ、まず神様を賛美出来ました幸いを感謝いたします。

私たちが生活していく中では、到底耐えられないと思うできごとや降りかかる災難があります。しかし、それらは神様のご計画の中にあることを信じますから、どうぞマリアのように謙虚に受け止め、受け入れることが出来ますように神様がお守りください。

今日一日が神様に喜ばれる日となりますように。

このお祈りを主イエス・キリストのみ名により御前にお捧げいたします。アーメン。

2021年11月25日 女子聖学院放送礼拝